

3 地域の皆さまとの対話に努めながら 早期の全線開通に向け、事業を進めています

新名神高速道路は、1963年の栗東IC～尼崎IC間開通以来、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路などとともに、高速道路のネットワークの多重化^①を実現し、日本の大動脈として高速道路の信頼性を格段に高めるために計画されました。NEXCO西日本では、この「新名神」を「未来につなぐ信頼の道」とするべく、整備を進めています。

▼ ① 川下川橋周辺での土工工事
(兵庫県神戸市・宝塚市境：2013年5月撮影)



▲ ② 名神高速道路と接続する高槻CTの建設現場
(大阪府高槻市：2013年5月撮影)

新名神・高槻～神戸間の開通で 中国道で頻発している渋滞を解消します

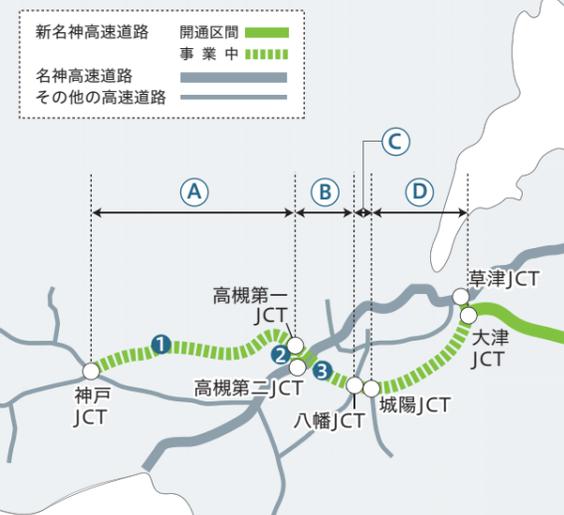
工事中区間の城陽～八幡間、高槻～神戸間の工事では、沿道地域の皆さまとの対話を重視し、工事中の安全・安心の確保はもちろん、自然環境の保全に努め、事業全体のコスト管理も行いながら、工事を進めています。工事の進捗については、ウェブサイト^②に随時掲載しているほか、工事を担当する事務所ごとに広報誌を発行するなど、情報発信にも努めています。

また、塗替え塗装が困難な重交通路線上の鋼橋に金属溶射^③を採用したり、コンクリートやPC鋼材^④の使用量を削減することができる「バタフライウェブ^⑤」工法を採用するなど、ライフサイクルコスト^⑥の最小化にも注力しています。

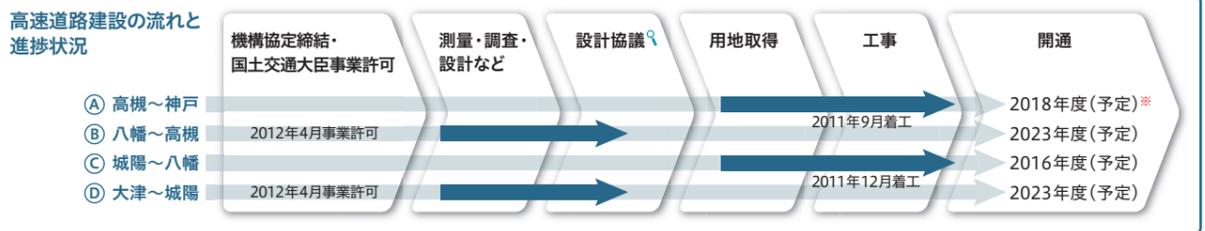


バタフライウェブの完成予想図
(大阪府高槻市の芥川橋)

新名神高速道路の整備状況



高速道路建設の流れと進捗状況



^{*} 会社努力目標は、2016年度

雅楽で使用される良質なヨシの生育環境の保全と 建設事業の両立に向け全力で取り組みます

2012年4月に事業許可を得た、大津～城陽間、八幡～高槻間では、現在、各種調査や設計などを実施しています。

このうち八幡～高槻間では、淀川を橋梁で横過する計画となっていますが、この淀川の河川敷には、「鶺鴒(うどの)ヨシ原」と呼ばれる長さ約2.5km、幅約400m、面積約75ヘクタール(甲子園球場18個分)のヨシ^⑦の自生地帯があり、自然環境としても、歴史・文化資産としても極めて重要な場所となっています。

この鶺鴒ヨシ原に生育するヨシの中で良質なものは、雅楽で用いられる楽器「箏^⑧(ひちりき)」のリード「蘆舌(ろぜつ)」として珍重され、現在でも宮内庁等の箏演奏者は蘆舌に良質な鶺鴒のヨシを使用しています。



⑦ 鶺鴒(うどの)ヨシ原(大阪府高槻市)



⑧ 箏(ひちりき)

NEXCO西日本では、雅楽で使用される良質なヨシの生育環境の保全と新名神事業の両立に向けて、基本的な考え方を策定するとともに、「新名神高速道路 鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会」を設置し、専門家から必要な調査、対策についての指導、助言を得ながら事業を進めています。



鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会
(2013年1月10日 第1回検討会)

ステークホルダーコメント

地域の雇用の創出や利便性の向上につながる「新名神」の開通を心待ちにしています



宝塚SA・スマートIC利活用等 地域活性化推進協議会 副会長
 宝塚市 西谷自治会連合会 会長
龍見 昭廣 様

「新名神」開通に伴い、中国自動車道の渋滞を避け、生活道路に入り込んでいた車両が大幅に減少することや、宝塚SA(仮)および併設されるスマートIC^⑨の整備によって、過疎化が進む地域の雇用創出、生活の利便性向上につながることを期待しております。スマートICの接続で、地域の交通量が増加するのではという不安もありますが、今後も地元と密接な対話を行いながら事業を進めていただくとともに、工事の本格化によって工事関係の車両が増えると思われるので、安全運転指導の徹底をよろしくお願いいたします。

《鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する基本的な考え方》

- 鶺鴒のヨシ原は、雅楽で使用される良質なヨシの生育地であり、自然環境、歴史・文化的にも極めて重要な場所と認識しています。
- ヨシ原に極力影響を及ぼさないよう万全な対策を講じます。
- 対策検討にあたっては、専門家や関係者のご意見を十分に伺います。
- ヨシ原焼きが従来通り継続的に実施できるよう関係機関と調整し、対策を検討します。
- 雅楽で使用される良質なヨシ生育環境の保全と事業の両立に向け全力で取り組みます。

新名神高速道路 鶺鴒ヨシ原の環境保全に関する検討会

■ 委員(敬称略)

氏名	所属等	専門分野
鎌田 敏郎	大阪大学大学院 工学研究科 教授	橋梁
小山 弘道	鶺鴒ヨシ原研究所 所長	鶺鴒保全
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館 館長 兵庫県立大学 名誉教授	自然科学
西垣 誠	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	地下水
布谷 知夫	三重県立博物館 館長	植物学

■ オブザーバー(敬称略)

宮内庁式部職楽部(重要無形文化財「雅楽」保持団体) / 国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所(河川管理者) / 高槻市産業環境部(地元行政) / 鶺鴒のヨシ原保存会(鶺鴒のヨシ原焼き実行団体) / 上牧(かんまき)実行組合(鶺鴒のヨシ原焼き実行団体) / 東儀 秀樹(雅楽師、皇學館大学特別招聘教授)

現在、ヨシの生育範囲や生育状況を継続的に観察するとともに、地下水位や土壌水分などについても測定を行っているところです。今後、これらの基礎データのほかに、土壌の物理的特性や化学的特性を把握するとともに、DNA解析なども行い、過去にない総合的・体系的な調査を実施していきます。

また、「ヨシ刈り」など地域の環境保全活動にも積極的に参加し、環境保全に関する理解を深めていきます。



鶺鴒での「ヨシ刈り」の様子

社員コメント

地域の皆さまとの対話を重視し、 新名神事業への信頼を深めて いただくことに努めています



NEXCO西日本 関西支社
 新名神兵庫事務所長
真 伸行

「新名神」の建設事業推進にあたっては、道路構造や工事方法について地元と丁寧な協議を継続し、信頼をいただくことに注力しています。また、広報誌の発行や地域住民の皆さま向けの現場見学会などの機会を活用し、事業の内容や進捗状況を広くお伝えし、理解を深めていただけるよう努めています。「新名神」には、中国自動車道・名神高速道路の渋滞緩和や災害時の緊急輸送路の確保、地域の活性化等に大きな期待が寄せられています。今後はよりいっそう、地域の皆さまとの対話に努めながら一日も早い開通に向け頑張っていきたいと考えています。